用した結果についてのべる。\( \triangle \)

1-14. 食下水銀電極におけるパラ及びオルトニトリルアリアルの還元について 田中善信・小林正弘。パラ及びオルトニトリルアリアルのポーラログラフにについて研究した結果及びその応用について報告する。\( \triangle \)

1-15. 平板印刷に於けるエッチと接觸角について 大島恵一・大石篤一。平板印刷に用いるZn板に各種実験処理を行い、その上との接触角を測定し、平板印刷に於ける界面現象を論ずる。

1-16. 金属石墨の溶解療法の温度変化について 田村博之。Ni及びCo石墨の炭化水素溶液を加熱すると色調が変化する。吸収スペクトル、粘度、透過率をこの変化を測定。

1-17. 湿気の吸収、凝集、及び湿過——吸湿性と透湿性との比較 武田文之。有機物繊の吸湿率を測定し、吸着曲線を返し、吸湿性、透湿性に及ぼす影響を検討する。

1-18. 導体クラインストン 国際水産三、山田和郎。導体温度変調器のその後の進歩について報告する。

1-19. 電気火炎による波長 1 cm 前後の振幅 諸谷観大、大野久夫。波長を含む鉱物、水銀などにおけるアルミナが水銀の温度を測定し、20〜200 Mc の波長でマイクロウェーブの磁気共鳴吸収実験を行った結果の特性を述べる。

1-20. 常磁性塩のマイクロ波共鳴吸収の波長変化 諸谷観大、山田和郎、林観大、中村英太郎、島田順一。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した結果が、変化する性質を注意。

1-21. 常磁性塩のマイクロ波共鳴吸収の波長変化 諸谷観大、山田和郎、林観大、中村英太郎、島田順一。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した結果が、変化する性質を注意。

1-22. 油拡散ポンプのジェットの形に関する研究 諸谷観大、山田和郎、林観大、中村英太郎、島田順一。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した。

1-23. 油拡散ポンプのジェットの形に関する研究 諸谷観大、山田和郎、林観大、中村英太郎、島田順一。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した。数種の常磁性塩の磁場による磁気共鳴吸収を測定した。

1-24. RC発振器の周波数変動について（報報）藤井昌昭。電源電圧の変動等に依る周波数変動（変動）を調べ、周波数変動による偏移と比較した。又、周波数変動は±0.5%程度であることを判った。

1-25. 吸収帯の性質について 佐藤鳴子、五十嵐鶴一、子安謙。テクス、フェルトなどの吸収帯の flow resistance を測定した結果について。

1-26. 管楽器の研究（2）管の開口の接続について 佐藤鳴子、五十嵐鶴一、子安謙。管の管の開口の接続をしたときの音響特性を測定し、計算によるインピーダンス特性を定的に一致することを述べる。

1-27. 管楽器の研究（3）管の影響について 佐藤鳴子、五十嵐鶴一、子安謙。管の管の開口の接続をしたときの音響特性を測定し、計算によるインピーダンス特性を定的に一致することを述べる。

第1会場

第2日（11月10日）金9時〜12時

1-29. IRのスペクトルの超微細構造 番地篤一 1超微細構造からIRのスペクトル3/2, IRのスペクトルは$r_1/2$で$r_1$の磁気強度は非常に小さいことが結論される。

1-30. 強磁性体中の中間子磁気的散乱 藤原浩之助、井上隆雄。宇宙線の磁気散乱を求め、中間子は宇宙線の磁気強度を十分に調べておいて必要を求めたので、計算した結果を以上の見地から考察してみる。

1-31. 結晶中的中間子の減衰過程について 武藤俊之助、大山篤一。結晶中の中間子のIonization lossをFermi-Jell 小さい場合には中間子の波長が短いことからも、古典的で正確に求めているが、この計算には二次電子理論（Wooldridge）を組合せ計算し求める詳細に検討しようと考える。

1-32. 物質中における中間子崩壊について 武藤俊之助、井上隆雄。中間子は案の周りの Bound stateから中間子崩壊に free stateからdecayすると考えられているが、これがdecay electronのenergy spectrumにどの様な相関を現すかを検討する目的である。実験の結果は両者を識別する観点では大きいが将来正しい可能性があるとすれば中間子の Bound stateに落ちる最も直接的実証であろう。

1-33. 馬鹿の反射率、透過率の測定 木内昭彦。